日帰り登山について

今回の登山行事は昨年の登山実行員より出た「みらぼと農園ごちゃまぜでみんなで行きたい」という要望に寄り添い、合同で登山を行う計画で実施しました。当初の予定では、七月十八日に実施する予定でしたが、複数人のコロナ感染者の発生に伴う当時の職員動員数の変動と安全な活動を行う観点から十一月二十六日に延期し、実施しました。

当日は八時に集合し、バスで「神奈川県立あいかわ公園」へ移動しました。曇り空でしたが、宮ケ瀬ダムでは、周辺の山々や宮ケ瀬湖など広大な景色が広がり、それらを眺めながら高取山と南山それぞれのピーク地点を目指して活動を行いました。予定より三十分遅れてのスタートだったため、慌ただしいスタートを切ることになってしまい、結果として、目標地点に到達できたのは2チームのみに留まってしまいました。

それでも仲間たちはスタッフのサポートを受けながら、自分たちの体力に合わせて登山を行うことができ、昨年の経験を活かして全体的な進行はスムーズに行えたと思います。初めて行く場所での登山でしたが、活動を拒否する仲間はおらず、グループの仲間の一員として自然の中での活動に参加することができました。特に宮ケ瀬ダムから見下ろせる広大な景色に驚き、仲間たちそれぞれが自然の美しさを体感することができたと思います。

登山では、仲間同士が声を掛け合いながら山歩きを行う姿がみられ、自己成長や仲間意識の向上を感じることができました。仲間たちからは「初めての山だったけど行けてよかった」「目的地に行けなくて残念だった。次は目標地点まで行きたい！」という声が多く寄せられました。自然の中での活動は仲間たちの達成感や自己肯定感の向上につながることが確認できました。

来年も仲間たちの、日常のがんばりや要求がひとつでも叶えられる内容となるよう期待して今年度の登山の振り返りを終えたいと思います。

（みらぼカフェ　石澤幸樹）

はぐるまだより
No/125

2024 年
12 月 20 日

社会福祉法人
はぐるまの会
広報委員会

川崎市多摩区
菅馬場 1-19-24

TEL
044-946-1308

能登半島地震　被災地支援の活動に参加して

私が能登に入ったのは九月の能登豪雨があけた翌日でした。きょうされんが中心になって活動している取り組みで、被災された障害のある方への支援や事業所への支援などにあたっています。

初日には土砂崩れにより視察を予定していた支援先の施設へたどり着けず、進む先々で新たな道路の崩壊に直面し、前進するたびに障害が立ちはだかる。状況を正確に把握することすら難しく、困惑の中での支援開始となりました。

奥能登の被災地は解体作業もほぼ進んでおらず、半年以上が経っていても全壊・半壊した住宅がほぼそのまま残されていました。その中で起きた今回の豪雨で、川沿いの集落はほぼ壊滅。収穫直前の水田も水没し、いたるところに流れてきた巨木が横たわっている状態。震災から十カ月ほどが経つのに地域ごと取り残されていました。私のように通り過ぎるだけの人は、どんなに凄惨な風景でも家に帰れば安堵がありますが、そこで暮らす人はその風景の中で生活するか、そこを捨てて出ていくより他はない。そんなことを改めて考えさせられた活動でした。

私が担当したのは主に、仮設住宅内の片付け、通院の同行、被災した自宅の片づけなど。訪れた仮設団地はギリギリのところで浸水は免れたものの、停電も断水も続いており、今後の見通しも立たない。暮らしている方々は「この先は何もわからないから焦っても仕方ない」と仰って、何か超越したように落ち着いていたことも印象的でした。

お手伝いさせていただいた方は障害ゆえにご近所との付き合いも少なく、外出もない、食料はスーパーに電話して届けてもらっていたが、その町唯一のスーパーも水没して営業していない。これから起こるであろう困難をどの程度把握しているのか、そんなことを気にかけながら片づけの作業をこなし、「何も困っていない」というご本人を残し支援終了としたことが心残りでした。現状をできる限り細かく自治体に報告し、その後食料支援等も受けられたと知り安堵しましたが、その場で少し救いだったのは、段ボールなどを玄関先でまとめていた時に近所の方が心配して私に声をかけてくれたこと。ただ片付けを頼まれただけでお元気な事をお伝えすると安心されていました。お二人の直接の会話はなく、関係は分かりませんが、少しでも心配してくれる人がいるというのは心強いこと。近隣に顔が分かるだけでも知人が増えることはありがたいことで、私も地域の活動には積極的に参加していきたいと思っています。

はぐるまでも作業所、グループホーム近隣で顔が分かる関係が築ければそれだけでも何かの支えになるのではないかと思います。実際に災害など無いに越したことはありませんが、そんな時こそ顔見知りという安心感は計り知れません。近所の方々ともゆるくつながり、たとえその場に職員などいなくてもお互いに認識し合える、そんな関係が築けたら素敵です。職員としてそのための支援を続けていきたいと思います。

（染めの家　江原隆道）

きょうされん全国大会

11 月 8 日、9 日の 2 日間今年は琵琶湖がある滋賀県で開催され、はぐるまからも仲間 3 名、職員 5 名で参加をし、それぞれ分科会、利用者交流会で様々なことを学びました。

今大会のスローガンとして「創ろうみんなで、あたりまえの未来を」「発達保障と障害者権利条約を琵琶湖の地から」を掲げ、特別企画では、「発達保障の歴史とこれから」テーマに、障害者権利条約、発達保障の歴史の講義がありその中で滋賀を拠点に力を注いだ糸賀一雄さんの取り組みの講義が私はとても印象に残りここでお話ししたいと思います。

戦後、親を失った「浮浪児」と呼ばれる子供たちが町中にあふれその中に知的障害のある子供たちも居ました。糸賀さんはそんな苦しんでいる子供たち、さらには知的障害のゆえに捨てられている子供たちを「探し出してでも引き受けよう」という強い思いから昭和２１年近江学園を創設し、初代園長になりました。当時の知的障害者への理解は進んでおらず養護学校が義務化されたのは３０年先の 1979 年であり、糸賀さんらはその時代から知的障害を持つ子供たちの教育に取り組んできました。そうした子供たちを見て理解力や言語力に困難を抱えていても「感ずる世界」を持っておりそれは障害のない子たちと変わらない、だからこそ障害が重い子供たちが発達しかけている教育が必要だと確信を持ち、発達研究に力を注いでいったのです。糸賀さんは自身の身を削りながらも最後まで子供たちと向きあい、最後はとある滋賀県の新任職員研修会での講義後に病に倒れ翌日に 54 年の生涯を閉じるのですが、糸賀さんの最後の講義内容を録音で聞くことができ一部ですが紹介したいと思います。「教育というものは人間と人間との関係の中で行われてゆくもの。良い人間関係が得られることによって、子供たちは良い方向へ人間的な成長を遂げてゆく」というもの。「良い人間関係」の土台に「共感の世界」がある。共感の世界とは、重い障害を抱えベッド上でも表情もほとんど変えない少年がある日ベッドでおむつを替えようとすると、少年は息づかいを荒くして腰を心もち上げようとしていることに保母さんは気づき、少年は保母さんにやりやすいように必死に努力する、そのわずかな動きを感じ取って「ハッ」とする保母さん、そこにお互いの心が通じ合う瞬間の「共感の世界」がある。私自身も「すごい瞬間だ」と思い中々巡り合う瞬間は少ないのかもしれませんがこれが日々支援の魅力であると思います。今大会での糸賀さんの講義を聞き私も心に刻みながらこれからも支援に取り組みたいと思います。

（サービス管理責任者　巻山季幸）

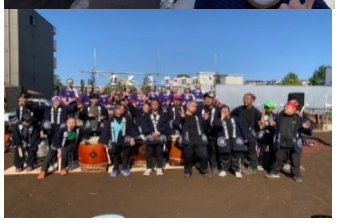
収穫祭　2024

十一月三日・前日の雨が嘘のように、天候に恵まれた収穫祭を開催することができました。当日はご家族や稗原自治会・青年会を筆頭に、稗原小学校のご家族等多くの地域の方々と一緒に、片付けまで終えることができました。ご協力に感謝いたします。

ありがとうございました

ステージ演目では、日ごろからお世話になっている方が多く所属している、ひえばら日新会様のコーラスではじまり、はぐるまの仲間も所属している萌重会様の民謡、仲間たちの先生でもある和太鼓里空様の力強い太鼓の演奏、はぐるま太鼓クラブぶどうの仲間たちの演奏など、大いに盛り上がることができました。毎年音響をお願いしている梨農家の持田さんが、今年はカラオケの準備をしてくださり、仲間たちはもちろん地域の子どもたちとも楽しむことができました。

ステージの司会を担当した大沼さんは「一人でも大丈夫だったよ。上手だったでしょう」と得意げに話してくれました。地域のお祭りや行事に参加していることも多く、みんなが来てくれたと、とても喜んでいました。また、今年はステージのある畑に飲食ブースや染物体験コーナーなどを配置したことでスタッフも共に楽しめる会となりました。



各ブースについては、例年までとは異なり「はぐるまマルシェ」として販売ブースを1カ所にまとめ、買い物のしやすさや活気あるお店の演出をしました。お店がわかりやすくていいとの声をいただき、来年も続けたいと思います。飲食ブースでは、稗原小学校に通う子と家族で駄菓子・ポップコーンの販売もしてくれました。午後には歩きながら販売をして、楽しかったと教えてくれました。

最後に、収穫祭も終わりにさしかかったころ「来年は装飾の手伝いをするね」と近所のママたちから声をかけていただきました。また、「まつりと言えば焼きそばが欲しい」という意見も多数いただいており、地域の方や関係者からいただいたご要望にも応えられるよう、来年に向けて準備をしていきます。

※簡単ではありますが、総売り上げが、461、150円であったことをご報告します。尚ブースごとの売り上げも計上されていますが、紙面の関係で総売り上げのみとさせていただきます。　**（はぐるま農園　斉藤彩菜）**

収穫体験は、里芋、ピーマン、ナス、サツマイモを収穫しました。今年は、大根・サツマイモの育ちが良くなく、量も少なかったので、先着30名にしました。

サツマイモは午前の部でなくなってしまい、また里芋も一株に付いている芋の量が少なく、申し訳ない思いでしたが、来場してくださった方々はどの体験も楽しんでくださったようで、喜びに満ちた顔や歓声がありました。来年も楽しんでもらえるように出来る限りたくさん収穫物があるようにしたいと思います。（天候次第ではありますが・・・）　**（はぐるま農園　吉武誠一）**